

相馬野馬追の武者行列@千葉県鎌ヶ谷市

『発祥地』下総国小金原で勇ましく



すけさきた96号で「相馬野馬追」をご紹介したところ、千葉県在住のカラサワさんより「地元の市民まつりで相馬野馬追の武者行列が見られます」という情報をいただきました。

武者行列は平成23年から「鎌ヶ谷市民まつり」に参加しており、今年も多くの人に迎えられる堂々の凱旋をみせてくれたそうです。



鎌ヶ谷市民まつりでの武者行列(撮影:カラサワさん)
▲上・平成28年のようす 色とりどりの旗が鮮やか
▲左・平成29年のようす 今年も騎馬武者がお客さんの近くまで来て、馬に触らせてくれたそうです

▼下・こちらも今年の写真(撮影:カラサワさん)黄色い衣装のゆるキャラ『レルヒさん(新潟)』は毎年欠かさずやっています



(鎌ヶ谷市民まつり実行委員会HPより)

鎌ヶ谷の地の相馬氏の支配は、南北朝時代頃には失われてしまいましたが、鎌ヶ谷でも江戸時代には、幕府の牧場が設けられ、「野馬捕り」が行われるなど、「馬」を通じた歴史的な縁と共通点があります。

鎌ヶ谷は、国史跡に指定されている「下総小金中野牧跡(しもうさこがねなかのみさきあと)」があるように、小金原と呼ばれていた地です。また、相馬藩主を務めた相馬氏のルーツは、鎌倉時代に鎌ヶ谷地域の北部を含む「相馬御厨(そつまみくりや)」と呼ばれる荘園を、下総守護千葉常胤(つねたね)の次男師常(もろつね)が相続して「相馬」を名乗り、その後本拠地を福島県の行方(なめかた)郡(現在の南相馬市)に移したことに始まります。野馬追行事もこの時引き継がれたとされています。

伝説では、相馬野馬追の始まりが「相馬氏の祖である平将門(たいらのまさかど)が下総国小金原(こがねはら)に野馬を放ち敵と見立ててこれを追ったことに始まる」とされています。

「相馬と鎌ヶ谷のかかわり」

かつて小金原(現在の鎌ヶ谷市周辺)を駆け巡って行われていた「野馬追」は、南北朝時代以来という時を経てふたたび鎌ヶ谷の地に戻ってきました。

多くの人々が遠方の災害にもわがことのように心を寄せることができるのは、このように日本がさまざまつながりに満ちているからかもしれません。

武者行列の「里帰り」が、これからも鎌ヶ谷市民のみなさんに歓迎されながら、長く続いていくことをお祈りいたします。



転倒すると点灯します

おもしろい懐中電灯が登場!



明かりこけし

胴が細く頭が大きい、という不安定さを逆手に取り、防災グッズとしても役立つ「こけし」が生まれました。

手に持って傾けた時や、地震などで倒れた場合にLEDライトが自動的に点灯し明るく輝きます。(こけしのしまめき)



MONTHLY

「東北に黒龍を送ろう! 大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』
「しんぶん」
かめぼし

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ホランティアに来たよ」という
意味である

NOVEMBER
11
2017

資料:千葉日報、鎌ヶ谷市民まつり実行委員会、twitter、こけしのしまめきオンラインショップ